

令和元年度 授業改善推進プラン <技術・家庭科>

大田区立大森第十中学校

○技術・家庭科における令和元年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

■成果

- ・題材の選定やICT機器の活用により製作への興味・関心をさらに引き出し、実践的・体験的な活動に積極的に取り組ませることができた。
- ・生徒の知識や技能の習得度を的確に把握することで、「分かる」「できる」授業を工夫し、苦手意識のある生徒にも達成感を味わわせることができた。
- ・安全面に配慮しながら、製作計画に沿って作業を行うことができた。
- ・生活や社会とのつながりについて理解を深めさせることで、生活や社会をより良くしようとする意識をもたせることができた。

■課題

- ・技術分野と家庭分野、また履修内容によって学習意欲に偏りが生じており、興味・関心のもてる授業内容の工夫が必要である。
- ・日常生活の中で生徒自身が技術・家庭科に関わる経験をする機会が少ないため、本格的な製作経験が乏しく、限られた時間の中で知識や技能の定着を図ることが難しい。
- ・生活の中で自ら問題点を見出し課題を設定することはできるが、課題を解決する力が不十分である。

○技術・家庭科における観点別の分析

■「関心・意欲・態度」

- ・製作意欲は高いが、技術分野と家庭分野、また履修内容によって学習意欲に偏りが生じるところが引き続き課題である。また、社会や環境との関わりについて理解を深め、身の回りの生活の中で適切に知識・技能を活用する態度の育成が必要である。

■「思考・判断・表現」

- ・グループ学習を取り入れ、生徒が他者と対話し協働する活動を行ったことで、生活をより良くしようと生活の中で自ら問題に気付く力や課題を設定する力を育むことはできたが、課題を解決する方法や実際に解決する力の育成が不十分である。

■「技能」

- ・ICT機器の活用や個に応じた指導等により、技能を一時的に習得することはできるが、習得した技能を生活の中で継続して活用することが少ないため、さらに技能を向上させることや定着を図ることが難しい。

■「知識・理解」

- ・習得した知識が身近な生活とつながりがある場合や製作との関連性がある場合については理解を深められている。しかし、履修内容によっては難しい印象をもつもの、興味のもてないものもあり、生徒の興味・関心を引き出しながら知識・理解の習得を図ることが課題である。

○分析に基づいた授業改善のポイント

1 技術分野と家庭分野との連携

→ 生徒自らが生活に関心をもち、実践的・体験的な学習活動を通して習得した知識と技術が、生活の自立につながるような、技術分野と家庭分野が連携した授業を工夫する。

2 生活や社会の中で問題を見だし課題を設定し、解決する力を養うための学習活動の充実

→ グループによる実践的・体験的な学習活動の中で生徒が課題の解決を図る場面を多く設定し、話し合い活動を通して、生徒たち自身で問題を解決したという成功体験を積み重ねるような授業を工夫する。

3 苦手意識の克服を目指すために「分かる」「できる」活動を積極的に取り入れる

→ 生徒の興味・関心を引き出すような教材を工夫する。また、配慮を要する生徒等に対し、毎回の授業の中で個別に対応することで生徒の習熟度を適切に把握しながら、「分かる」「できる」経験を積み重ねられるようにしていく。

○技術・家庭科の授業改善策

1 学年

・学習内容と身近な生活との関わりに多く触れるような授業を工夫し、興味・関心をもたせるようにする。

・実践的・体験的な活動を通して、ICT機器を活用した一斉指導と個別指導を取り入れながら、基礎的・基本的な知識と技能の習得を図る。

・グループによる活動の中で問題解決的な場面を多く設定し、問題を発見する力、課題を設定する力を身に付けられるようにする。

2 学年

・1学年で習得した技能と知識を活用するような教材を取り入れ、継続的に学習することで既習事項の定着を図るとともに、新たな知識と技能を習得していく。

・グループによる活動の中で問題解決的な場面を多く設定し、他者と対話し協働する活動を通して解決方法を試行錯誤し、実際に解決する力を身に付けられるようにする。

3 学年

・生活や社会の中で実際に起きている問題を取り上げ、主体的で対話的な問題解決型の授業を通して、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けられるようにする。

・学習内容と将来の職業や生き方との関わりにも触れるような授業を工夫し、学習した事柄を進んで実生活の中で活用し、生活をより良くしようとする意識を高められるようにする。